

社会福祉法人さぽうと21

平成29(2017)年度 事業報告書



「さぽうと21には、『今年もまた会えたね』って言い合える友だちがいて、とても嬉しいです。」

毎年実施している「夏期研修会」は、2017年度で51回目の開催を迎えました。日頃「日本人」に囲まれて生活する学生たちが、自分と同じような背景をもつ「外国にルーツのある」仲間と共に過ごせる貴重な機会でもあります。

(開催期間：2017年8月20日(日)～22日(火) 2泊3日)

社会福祉法人さぽうと21



〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-12-2 ミズホビル 6階

TEL : 03-5449-1331 ・ E-mail : info@support21.or.jp

URL : <http://support21.or.jp/>

目次

平成 29 (2017) 年度 事業概要	1
I. 生計困難者に対する生活援助事業	2
1. <u>自立支援事業</u>	
(i) 生活支援プログラム	2
(ii) 坪井一郎・仁子学生支援プログラム (通称：坪井基金)	3
(iii) パチンコ・パチスロ奨学金 (略称：pp 奨学金)	4
(iv) 夏期研修会：外国にルーツをもつ学生の「働き方」発見セミナー	5
(v) 報告会・交流会：外国にルーツをもつ「研究者の卵」たち	8
(vi) キャリア支援：資格取得の応援 など	10
2. <u>学習支援室事業</u>	
(i) 日本語、パソコン、学習教科補習等の学習支援	11
(ii) 学習支援室関連の行事等	12
(iii) 委託事業、助成金事業等の実施	13
II. <u>生計困難者に対する相談事業</u>	17
III. <u>緊急支援</u>	18
IV. <u>広報活動</u>	19
V. <u>団体 / 企業によるご協力</u>	20
VI. <u>平成 29 (2017) 年度 決算 ・ 監査報告</u>	22
VII. <u>役員一覧</u>	26

社会福祉法人さぼうとにじゅういち

平成 29 (2017) 年度 事業概要

本年度も生活援助事業の一環で「生活支援プログラム」と「坪井一郎・仁子学生支援プログラム(坪井基金)」、「学習支援室」を運営しました。特筆すべき点として、「パチンコ・パチスロ奨学金 (p p 奨学金)」の発足や、「学習支援室(東部教室)」の開講が挙げられます。これまで支援が行き届かなかった対象者のため、事業の充実化にご賛同くださった企業・団体の皆さまに心より御礼申し上げます。

「生活支援プログラム」及び「坪井基金」では、61名に学業継続のための生活支援金を支給しました。毎年実施している「夏期研修会」では、2015年度より継続している「キャリア支援」の拡大版として、「『進路選択』・『就職』に関するワークショップ」及び「職場訪問」を実施しました。本年度は8名が4月より新社会人として働き始めました。

「学習支援室」では、通常の日黒教室の他、先述の東部教室を新たに開講しました。また本年度も、文化庁の「生活者としての外国人」のための日本語教育事業により、各種研修、初級者向け日本語教室、教材作成を行いました。更に、(一財)柳井正財団及び明治学院大学との協働事業として、2016年より継続している「集中学習支援教室」を本年度も開催しました。

「東日本大震災関連支援事業」は、2016年度より継続していた「障がい者福祉作業所『かたつむり』再建プロジェクト」が完了し、本年度で主な事業を終了いたします。姉妹団体の認定NPO法人難民を助ける会[AAR Japan]と協働し、7年間事業を継続して参りました。活動を支えてくださった全ての皆さまに衷心より御礼申し上げます。なおAARの被災地支援活動には、今後も引き続き協力して参ります。



I. 生計困難者に対する生活援助事業

1. 自立支援事業

(i) 生活支援プログラム

① プログラム概要

高校や大学、専門学校に在籍する難民（インドシナ難民、条約難民、第三国定住難民）や、日系定住者及び中国帰国者の子弟等で、経済的事情により就学が困難な者に対し、「生活支援金」を支給した。

② 支給状況

本年度は、86名からの応募があり、当会役員による審査の結果、以下のとおり、50名を支援した。支援金は2か月に1度、銀行振込にて支給した。また、受給者の困窮度をかんがみて、支援金の最低金額を、高校生も月額1万円とした。

■ 支給者数：50名

■ 支給期間：2017年4月～2018年3月

■ 支給総額：6,955,000円／年額（1名あたり10,000円～30,000円／月）

学校種別	人数	出身国 / ルーツのある国
高校	25名	ベトナム12、ミャンマー5、ブラジル3、ペルー2、カンボジア1、 コンゴ民主共和国1、シリア1
専門学校	2名	ミャンマー1、ベトナム1
短大	1名	ベトナム1
大学	22名	ベトナム8、中国3、ブラジル3、ペルー3、ミャンマー2、イラン1、 カンボジア1、フィリピン1、

(※ルーツのある国は、受給者数が多い順に記載)

③ 受給者（生活支援生）への対応

i) 個別面談の実施

(iv) 夏期研修会（P.5）にて、役員による個別面談を行った。学業の様子や、進路希望、また家庭状況の変化について聞き取りを行った。事務局内でケースシェアを行い、別途対応が必要と思われる支援生に対しては、個別対応を行った。

ii) 振込み確認葉書によるサポート

支援金を振り込む際の案内状とあわせて、返信用の振込み確認葉書を送付した。前月の葉書にある支援生からの近況報告に対し、一言コメントを寄せるなどし、顔を合わせることの少ない支援生との関係づくりに努めた。

iii) 課題エッセイの提出

支援生が自身の考えを整理して文章化するトレーニングの一つとして、また支援生の関心などを理解することを目的に、エッセイ（800字程度）の提出を義務付けた。本年度は、①記憶に残る2017年のニュース、②〇年後の私から選び、執筆してもらった。

(ii) 坪井一郎・仁子 学生支援プログラム（通称：坪井基金）

① プログラム概要

東洋熱工業株式会社からの株主配当金をもとに、主に理系専攻の大学3年生以上、大学院生の難民（インドシナ難民、条約難民）や、日系定住者及び中国帰国者の子弟等に対し、学業推進のための「生活支援金」を支給した。

② 支給状況

本年度は、全国から18名の応募があり、同基金の委員による書類・面接審査の結果、以下のとおり、11名を支援した。支援金は毎月1度、銀行振込で支給した。

■ 支給者数：11名

■ 支給期間：2017年4月～2018年3月

■ 支給総額：6,480,000円／年額（1名あたり40,000円～60,000円／月）

学校種別	人数	出身国 / ルーツのある国
大学	4名	ブラジル2、ペルー1、中国1
大学院	修士	6名 ペルー2、エリトリア1、中国1、ブラジル1、ベトナム1
	博士	1名 ベトナム1

(※ルーツのある国は、受給者数が多い順に記載)

③ 受給者（坪井支援生）への対応

i) 面談の実施

(iv) 夏期研修会（P.5）中に、役員による個人面談を実施し、研究への取り組み方、進路、生活状況や家族の様子について聞き取りを行った。

ii) 振込み確認葉書によるサポート

生活支援プログラムと同じ要領で、支援金を振り込む際に「振込みのお知らせ」と「振込み確認の葉書」を送付し、手書きのメッセージでのやり取りを行った。

iii) 課題エッセイの提出

坪井支援生としての学業の成果を知ることと、(v) 報告会・交流会（P.8）での発表用原稿として、エッセイ（1000字程度）の提出を義務付けた。エッセイは、当日のプログラムに掲載した。

(iii) パチンコ・パチスロ奨学金（略称:pp奨学金）

① プログラム概要

本年度より、日本人及び元外国籍の学生を対象とした「pp奨学金」を発足させた。本奨学金は、パチンコ・パチスロ業界の有志及び来店者からの募金（募玉やコインを換算）を、奨学金として充てる。

② 支給状況

プログラム初年度は、同奨学金の委員会（委員長＝深谷友尋理事）による書類・面接審査を経て、試験的に8名を支援した。支援金は、2か月に1度、銀行振込にて支給した。

- 支給者数：8名（内訳：大学生5名、大学院3名）
- 支給期間：2017年4月～2018年3月
- 支給総額：4,560,000円／年額（1名あたり30,000円～50,000円／月）

③ 受給者（pp奨学生）への対応

i) 振込み確認葉書によるサポート

上述の「生活支援プログラム」及び「坪井基金」と同じ要領で、支援金を振り込む際に「振込みのお知らせ」と「振込み確認の葉書」を送付し、近況報告を義務付け、概ね実行された。

ii) 「pp奨学金」式典でのスピーチ

毎年、支援者に対する報告の場として式典を開催するが、支援が決定した学生は、自己紹介と将来の希望についてスピーチした。

④ 委員会

同奨学金の運営委員会を設置した。構成員は以下のとおり。

役職	氏名
委員長	深谷 友尋
副委員長	阿部 恭久 / 小島 豊 / 韓 裕
委員	吹浦 忠正 / 白石 良二 / 松谷 明良 / 大西 康弘 / 福井 章 岩下 博明 / 山田 久雄 / 泰 青 / 高橋 孝幸
会計	柳瀬 房子
監査	日野 洋一 / 高橋 敬子
顧問	篠原 弘志

(敬称略)

(iv) 夏期研修会

【助成元】平成29年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業
【助成総額】1,052,000円

① 実施目的

来日経緯や学年、出身地域の異なる支援生が交流し合い、また進学や就職など、自らのキャリア形成について考える機会として、毎年「夏期研修会」を開催している。

本年度は、「外国にルーツをもつ学生の『働き方』発見セミナー」と題し、将来の働き方を見据えた進学先の選び方や、世の中にある会社や業務を知り、将来の仕事の選択肢を広げることを目的に、『進路選択（高校生向け）』、『就職（専門・短大・大学・大学院生向け）』に関するワークショップの開催、「職場訪問」を実施した。

② 実施日時

- 実施日：2017年8月20日（日）～22日（火）2泊3日
- 宿泊先：晴海グランドホテル（東京都中央区晴海3-8-1）
- 参加者数：延べ128名（1日目：45名／2日目：45名／3日目：38名）

③ 実施内容

1日目：『進路選択』、『就職』に関するワークショップの開催



i) 『進路選択』に関するワークショップ

就職を見据えた進学先選び、大学やそれ以外の選択肢、学費などについてお話いただいた。

学歴によって働き方が違う場合もあることから、将来の仕事や働き方を考えた上での進路選択が重要だと学ぶことができた。大学や専門学校、短大の特徴や、学費、奨学金制度についても話していただき、様々な観点から自分の希望や経済状況等に合った進路を考えるきっかけとなった。



ii) 『就職』に関するワークショップ

学生が幅広い業界、職種に目を向けるためのワークに始まり、日本の「就活」や最新の採用スケジュール、大卒求人倍率の推移など、統計資料をもとに解説していただいた。また筆記試験や面接の意図、人事担当者が見ている能力などについてもお話いただいた。入社後のミスマッチを防ぐ手段として、「自分を知る（自己分析）」と「相手を知る（業界研究）」ことの大切さも伝えてもらった。

2日目：職場訪問

i) オイシックスドット大地 株式会社 【業界:小売/IT サービス】



■会場：オイシックスドット大地株式会社 本社

(東京都品川区東五反田 1-13-12 いちご五反田ビル 10 階)

■参加者：5 カ国 11 名 (その他、引率者 1 名)

インターネットを通じて、生産者が作る安心・安全な食材を食卓に届け、料理の楽しさ・美味しさを感じてもらうための事業を行っている。当日は、

人事部の方にお話を伺った。会社概要や扱っている商品の紹介、IT サービスの活用方法、Web マーケティングの仕組みや、IT 業界の今後、競合他社との競争や提携のあり方など、経営戦略などについても解説していただいた。

ii) 株式会社 エイチ・アイ・エス 【業界:旅行】



■会場：株式会社エイチ・アイ・エス 本社

(東京都新宿区西新宿 6-8-1 新宿オークタワー29階)

■参加者：6 カ国 13 名 (その他、引率者 2 名)

人事部の方々に、国内外の旅行業界の動向、旅行商品の企画から販売までの流れなどをお話いただいた。その後、業務体験として、参加者がグルー

プごとに「HIS らしさ」のある学生旅行を企画し、発表した。また、地球規模の課題に取り組むために、宇宙事業、ロボット、植物工場、自家発電などの分野にも参入されていることを伺った。

iii) 株式会社 ファミリーマート 【業界:流通】



■会場：株式会社ファミリーマート 本社

(東京都豊島区東池袋 3-1-1 サンシャインビル 17 階)

■参加者：4 カ国 11 名 (その他、引率者 1 名)

海外出店にも携わった CSR 担当の方から、会社紹介、商品開発、海外展開、企業 CSR 活動などについてクイズや映像を交えながらお話しいただいた。

商品開発では、商品が店頭並ぶまでの企画・開発、流通の仕組みや、販売戦略などについての説明があった。また、海外出店までの様子について、テレビ放送された内容をもとに、海外展開に必要なスキルなどを説明していただいた。

iv)株式会社 ワイズ・インフィニティ【業界:通訳/翻訳】



■会場：株式会社ワイズ・インフィニティ 東京本社
(東京都港区赤坂 2-10-9 ラウンドクロス赤坂 2 階)

■参加者：6 カ国 10 名 (その他、引率者 2 名)

前半は、経営管理部の方に会社概要をご説明いただき、顧客サービス部、制作部で働く社員の方にお話を伺った。また、仕事を体感するため、字幕翻訳をつけるワークを行い、映像翻訳の特徴、難しさや面白さを経験した。後半は、“仕事をする上で大切なこと”というテーマで先輩社員からお話いただく機会を得た。

3日目：プレゼンテーション・スキルを学ぶ、丸の内散策ツアー



■会場：株式会社セールスフォース・ドットコム 本社
(東京都千代田区丸の内 2-7-2 JPタワー12階)

■参加者：9 カ国 38 名 (その他、引率者 4 名)

最終日に『「プレゼンテーション・スキルを学ぶ」、
『丸の内散策ツアー』』を実施した。「プレゼンテーション・スキルを学ぶ」では、「職場訪問」で学んだことを、社員ボランティアとプレゼンテーション資料にまとめ発表した。「丸の内散策ツアー」では、社員と学生の混合チームで、キーワードをもとに、丸の内周辺にある会社を探すアクティビティを行った。時間内により多くの会社を見つけ出すための、円滑なグループワークの方法を学ぶ機会となった。

④ 参加者アンケート

- 「進路選択」「就職」に関するワークショップ (回答者 42 名 / 参加者 44 名)
とても満足 31 名 ・ 満足 11 名 ・ やや不満足 0 名 ・ 不満足 0 名
・ 大学に行くと行かないとで、将来の稼げるお金が全然違っていた。大学に行けばいいと思っていたが、“まず将来を決めるべきだ”と分かった。(ベトナム/高校)
- 「職場訪問」 (回答者 36 名 / 参加者 45 名)
とても満足 32 名 ・ 満足 4 名 ・ やや不満足 0 名 ・ 不満足 0 名
・ 旅行を提案するだけでなく、それまでに立案やプロモーションなど、色々なことがあり、すごく興味がわきました。(ブラジル/大学)

● 「職場訪問」受け入れ先企業の担当者

- ・外国籍スタッフが働く職場を見学した時の皆さんの反応から、参加した学生さんたちの多様性を受け入れる感覚を日本人以上に感じました。
- ・「参加者が消極的ではないだろうか?」「日本語能力は大丈夫だろうか?」と心配な面もありましたが、実際は皆さんとても真面目で、積極的に参加してくれたことに良い印象を持ちました。

(v) 報告会・交流会

① 実施目的

当会の (ii) 坪井基金 (P.3) 支援生をはじめ、日本生まれや日本育ち、また難民として来日した外国にルーツのある学生たちの中にも、国内や国外で活躍できる人材が育っている。学生たちが取り組む最近の研究や学業の成果について報告し、団体/企業や支援者の方と交流する機会として、毎年「報告会・交流会」を開催している。

② 実施日時

- 実施日：2018年2月17日(土) 13時半～17時(開場13時)
- 会場：東洋熱工業株式会社 大会議室(東京都中央区京橋2-5-12)
- 発表者数：5カ国・11名
- 来場者数：45名

③ 実施内容

ポスター発表：外国にルーツをもつ「研究者の卵」たち

本年度は、ポスター発表形式で、(ii) 坪井基金 (P.3) 支援生による「報告会・交流会」を開催した。第1部、第2部ともに2つのブースを設け、ご来場者には関心のある発表を聴講してもらった。

- 第1部：【自己紹介】14時10分～14時30分・【発表】14時30分～15時15分

ブース①

1. 化学×プログラミングによるレポートの短縮化
ー Excel マクロを用いたグラフの体裁調整ツールの開発

(ペルー・東京農工大学 工学部 有機材料化学科 3年)

2. 日・中・韓の歴史認識を超えた異文化理解の試み
ー 外国人留学生と日本人学生によるアクションリサーチ

(ブラジル・桜美林大学 リベラルアーツ学群 3年)



日本人学生と留学生との間で、特に政治や歴史問題についての話がなされないことに疑問を抱き、大学のゼミのメンバーと一緒に、学内の日本人学生・留学生に調査を行った。日系ブラジル人という立場から調査結果を見て、より深い異文化交流のためには、歴史を多面的に捉える必要があると感じている。

3. 経済学・医学アラカルト

(元中国・東京医科歯科大学 医学部 医学科 3年)

ブース②

4. 内分泌について

(ブラジル・山梨大学 医学部 医学科 5年)

5. 手指動作と母音口形を用いた手話単語認識の高精度化

(元ベトナム・東京理科大学大学院 工学研究科 電気工学専攻 修士2年)



聴覚に障がいのある人が、より広くコミュニケーションをとるための手段として「手話認識システム」に関する研究を行っている。聴覚障がい者同士で意思疎通を図る際、手指の動作と、口唇の形状変化を認識していることに着目した。

■ 第2部：【自己紹介】15時30分～15時50分 ・ 【発表】15時50分～16時35分

ブース①

6. PROVIDING BETTER SOCIAL INTEGRATION IMPROVES DEVELOPMENT OUTCOME: International norms of Refugees and Higher Education for refugees in Japan

(エリトリア・早稲田大学大学院 アジア太平洋研究科 修士1年)

7. ALICE 実験 $\sqrt{s_{NN}} = 2.76\text{TeV}$ Pb-Pb 衝突におけるジェットと反応平面を用いた ソフト・ハード相関の研究

(ペルー・筑波大学大学院 数理物質科学研究科 物理学専攻 修士2年)



スイスの CERN 研究所(素粒子物理学と初期宇宙の物理学を扱う研究機関)で、宇宙初期の高温・高密度物質 Quark Gluon Plasma(QGP)の性質を調べるための実験に参加した。そこでの成果を、お手製の紙芝居を使いながら発表。

8. 創作科修士っていったいなにもの？

(ペルー・神戸大学大学院 人文学研究科 文化構造専攻 修士2年)

ブース ②
9. 無機質微粒子添加エポキシ樹脂研磨パッドの開発 (中国・立命館大学大学院 理工学研究科 機械システム専攻 修士1年)
10. ブラジル人学校に通う生徒の日本の高等教育進学におけるプロセスと課題 (ブラジル・東京大学大学院 教育学研究科 総合教育科学専攻 修士1年)
11. 研究を始めたきっかけと今後の目標 (ベトナム・東北大学大学院 理学研究科 化学専攻 博士1年)

④ 参加者アンケート

- 日本社会が考えていかなければならない問題がたくさん提示されていた。
- 難しい物理の話を小説に例えてからプレゼンしてくれたのが、聞きやすく良かった。
- 手話を画像認識する技術の仕組みと可能性を感じた。
- 日本の医療の問題点と、社会的選択理論の適用可能性について示唆を受けた。

(vi) キャリア支援：資格取得の応援、就職先決定者への支度金

① 実施目的



経済的に困難な状況にありながらも、日本で教育を修め、社会に出ようとする学生たちのキャリア形成に結びつくような取り組みを実施する。

各内容は、社会人になった卒業生や、団体・企業の協力を得ながら提供する。

② 実施内容

i) 各種イベント（進路選択・就職関連）の実施

本年度は、より多くの学生が参加できるよう、(iv) 夏期研修会（P.5）にて、『進路選択』・『就職』に関するワークショップ』及び「職場訪問」を実施した。ワークショップの講師派遣や、職場訪問の受け入れ先として、計7社に協力してもらうことができた。

ii) 資格取得の応援

就職や進学に活かすことのできる資格試験（英検・TOEIC・TOEFL・日本語能力試験）の受験料を支援する「キャリア支援制度」を、本年度も継続した。

- 支給者数：11名（高校3名、専門1名、大学5名、大学院1名、既卒者1名）
- 支給総額：71,427円（英検2級・TOEFL・TOEIC・日本語能力試験 N1・N2）

iii) 就職支度金 の支給

正規職員としての就職が決定した支援生に対し、就職支度金を支給した。

- 支給者数 : 8名 (高校1名、専門1名、短大1名、大学2名、大学院3名)
- 支給総額 : 240,000円 (1人あたり30,000円) ※ 1名は4月以降に支給予定
- 業 種 : 建設業、製造業 (精密化学、電子機器)、自動車小売業 など

2. 学習支援室事業

(i) 日本語、パソコン、学習教科補習等の学習支援

【助成】平成29年度 東京都在住外国人支援事業助成 / 【助成総額】1,107,000円

【助成】一般財団法人柳井正財団「難民対象の学習支援室 (東部教室)」 / 【助成総額】1,144,548円

① 概要

外国出身者が、単に「必要最低限の日本語を習得すること」だけを目指す支援ではなく、その自立を後押しし、社会参加の道を拓いていくことを目的として教室を運営した。これまでミャンマーにつながる方々が受講者の大半を占めていたが、アフガニスタン、エチオピア、コンゴ民主共和国、ベトナム、シリアなど、他の地域出身者も参加している。また、今年度から新たに錦糸町教室を開講し、東京都東部地域や埼玉県、千葉県在住の難民等も通いやすい環境にて学習支援を実施している。

② 実施状況

■ 開催期間 : 2017年4月1日 - 2018年3月31日

1. 目黒教室 : 毎週土曜日 10時~18時 (必要性があると判断された場合は平日にも授業を実施した)
2. 錦糸町教室 : 毎週日曜日 13時~17時

※ 錦糸町教室の運営費は、一般財団法人柳井正財団より助成を受けている

■ 開催場所 :

1. 目黒教室 : さぼうと21事務所会議スペース
2. 錦糸町教室 : ROOMS 錦糸町 (東京都墨田区錦糸 1-14-7 ティックハウス)

■ 受益者数 : 2,517名 (のべ)

■ 稼働ボランティア数 : 2,160名 (のべ)

■ 登録受講者数 : 約100名 (うち今年度新規登録33名) 6歳 ~ 70歳

* 国籍 : 大半はミャンマー (ビルマ) が占め、それ以外は各国数名 (アフガニスタン、エチオピア、コンゴ民主共和国、シリア、ベトナム、元中国 他)

■ 登録ボランティア講師数 : 約100名 (うち今年度新規登録51名)

* 聖心女子大学 SHRET のメンバーがボランティアとして参加。

【 受講者動向 】

■ 進学

都立高校 6 名（ミャンマー3名、エチオピア 1 名、コンゴ民主共和国 1 名、その他 1 名）
 県立高校 3 名（ミャンマー2名、アフガニスタン 1 名）、私立高校 2 名（ミャンマー2名）

■ 日本語能力試験

N1 合格 4 名、N2 合格 3 名、 N3 合格 1 名

【 クラブ活動など 】

ボランティアや学習者が自主的に実施運勢するイベントやクラブ活動が行われている。現在、「ギタークラブ」、「さぼうとカフェ」が活動中。

(ii) 学習支援室関連の行事等

受講者の学習意欲向上、日本語力の向上、ボランティアの指導力強化、参加者相互の交流、情報交換等を目的として、様々な行事を実施。

(敬称略)

4 月	15 日～	■ 大正大学より実習生の受け入れ 3 名（～7 月まで）
7 月	1 日	■ おむすびを持って公園へ行こう！（参加者：51 名） ■ 明治学院大学より実習生の受け入れ 2 名（～11 月まで）
	8 日～	■ 七夕短冊 作成（さぼうと 21 事務所にて展示）
8 月	22 日	■ ボランティア講師 会議 + 講演会 + 交流会（参加者：25 名） 青年海外協力隊 OBOG より活動紹介
	7 月 24 日～8 月 29 日（計 20 日間）	■ 小・中学生向け「夏休み集中学習支援教室」実施（参加者：23 名） 〔 共催：一般財団法人 柳井正財団、明治学院大学 〕 ※助成金事業
9 月	16 日	■ 日帰りバス旅行（参加者：80 名） 訪問先：静岡県／城ヶ崎海岸、韮山反射炉、三嶋大社
	23 日	■ フットサル交流試合 （ソルベイスペシャルティポリマーズジャパン株式会社 有志チーム）
10 月	9 月 30 日・ 10 月 1 日	■ グローバルフェスタ参加（展示、飲食ブース出展）
	28 日	■ ミニダイバーシティカップ（フットサル大会）参加（参加者：5 名） 〔 主催：NPO 法人ビッグイシュー基金 〕
12 月	2 日	■ ボランティア勉強会「学齢超過生徒への学習支援を学ぶ」（参加者：10 名） 講師：南 江美子（多文化共生センター東京 事務局スタッフ）
	16 日	■ としわすれランチ（企画実施：カフェプロジェクトチーム）
1 月	6 日～	■ 書き初め（さぼうと 21 事務所にて展示） ■ お餅を食べよう会
	20 日	■ ボランティア講師・新年顔合わせ会（参加者：38 名）
2 月	3 日	■ ボランティア勉強会「夜間中学校における学習支援を学ぶ」（参加者：11 名） 講師：須田 登美雄（足立第四中学校夜間学級教諭、全国夜間中学校研究会理事）
3 月	24 日	■ 学習発表会（参加者：62 名 ※発表者 37 名を含む） 於：三州郷土館
	26 日～4 月 4 日 （計 8 日間）	■ 小中高生向け「春休み集中学習支援教室」実施（参加者：30 名） 〔 共催：一般財団法人 柳井正財団、明治学院大学 〕 ※助成金事業



公園でシートを広げて、いただきます！
(7月1日 林試の森公園にて)



モヒンガー、いかがですか？(グローバルイスタ)

(iii) 委託事業、助成金事業等の実施

① 『生活者としての外国人』のための日本語教育事業

文化庁の助成を受け、今年度も『生活者としての外国人』のための日本語教育事業を実施。日本に暮らす外国人住民（とくに難民）が、言葉の学びを通して生活基盤を強固なものとし、個々の「成長」を旨として日々過ごせるようになること、より多くの日本人住民・先輩の外国人住民が、彼らの良き「伴走者」として成長すること、その結果として、関わる全ての人たちが多文化共生社会日本の一員として共に手を携え前進していけることを目的に、以下3つの取り組みを実施。

■ 実施期間：2017年5月1日 - 2018年3月20日

■ 事業決算額：2,859,065円

(敬称略)

● 取組1：日本語教育

<日本語教室（難民のための体験型初級日本語講座）>

日本語教育の専門家の指導者のもと、「体験」を中心にすえた初級日本語講座を実施。参加型の学習を通じて、学習者が日本人とのコミュニケーションをおそれず、自ら考え、行動できるようになることを目標とした。

□ 期 間：2017年5月13日 - 2017年10月7日（春夏講座）

2017年10月21日 - 2018年3月10日（秋冬講座）

* 受講時間：各講座 計60時間（1回3時間×20回）

□ 場 所：事務所会議スペース・にほんごタウン

□ 受講者の総数：16名（国籍：ミャンマー、ガーナ、コンゴ民主共和国、リベリア、シリア、パレスチナ）

□ コーディネーター：田中 美穂子／指導者：ディラン 恵子／指導補助者：三宅 陽子

<生活力向上のためのワークショップ>

生活上で必要となる知識を得ることを目的とし、参加型ワークショップを実施。テーマ毎に専門家を招いて7回実施。正しい理解を促すため、全部の回でビルマ語通訳を配置。

□ 期 間：2017年5月13日 - 2018年2月3日（1時間半×2回、2時間×4回、2時間半×1回）

□ 場 所：事務所会議スペース 他

□ 受講者の総数：のべ137名（国籍：学習支援室ボランティアも含み、国籍はミャンマー、エチオピア、コンゴ民主共和国、ベトナム等）

□各回テーマ：「お弁当を作ろう」「お金の学校」「女性の健康」「お金のトラブルを防ごう」「親子で聞く進路の話 ～“働く”を意識した進学先選び」

□講師： 当会ボランティア2名、株式会社 東京スター銀行の社員5名、
上村 いずみ、青山 雅恵（ワーカーズ・コレクティブ生活クラブFPの会）、
高屋 江梨子（株式会社 進路情報ネットワーク）等



<日本語教室>

ひらがな、カタカナ、漢字…たくさん覚えました！



<ワークショップ>

クレジットカードのトラブルに巻き込まれないために・・・

● 取組2：日本語教育を行う人材の養成・研修

地域日本語教室で活動するボランティアの方を対象とし、以下3つの講座を実施。

<① ブラッシュアップ講座>

「日本語教育支援のあり方」について理解を深め、日本語支援のスキルを高めること、また各人が所属する日本語教室の活動を活性化する意識とスキルをもてるようになることを目指した参加型講座。

□期 間：2017年11月26日 - 2018年3月4日（1回2時間半×8回＝20時間）

□場 所：事務所会議スペース

□受講者総数：23名

□ナビゲーター：奥原 淳子、長崎 清美

□講 師：上記ナビゲーター2名、中山 由佳、武田 聡子、武 一美、安高 紀子、
菊池 富美子、下郡 麻子

□特 徴：「活動」を知る・学ぶ・体験する」をテーマに、参加者皆で、共に学び、共に考える「参加」型の講座とした。

<② 活動基礎講座>

活動を始めて間もない方向けに、「生活者としての外国人」や「日本語学習支援」についての理解を深め、日本語学習支援のスキルを高めることにより、各人が所属する日本語教室の日々の活動を活性化する意識とスキルをもてるようになることを目的としている。

□期 間：2018年1月14日 - 2018年3月11日（1回4時間×5回＝20時間）

□場 所：事務所会議スペース、SHIP 品川産業支援交流施設

□受講者総数：38名

- 講師：西原 鈴子、黒羽 千佳子、金子 琢哉、高柳 なな枝、山田 和美、
中村 絵乃、岩田 一成、麻生 洋、新居 みどり、矢崎 理恵
- テーマ：「地域日本語教室に期待される役割」「地域での日本語教育実践」「日本語学習支援のきそのきそ」「定住外国人にとっての在留資格」「外国人からの相談」等

<③ 理解を深める講座>

- タイトル：難民への日本語教育を俯瞰する
- 日時：2017年12月17日（日）13時～16時30分
- 場所：事務所会議スペース
- 受講者の総数：45名
- 報告者：小瀧 雅子（難民事業本部）、寺畑 文絵（難民支援協会）、伴野 崇生、
新井 協子・向井 園子（カトリック東京国際センター）、寄田 恭直・
マリップ・センブ・宗田 勝也（PEACE）、石川 美絵子（日本国際社会事業団）・
富田 京子
- ファシリテーター：松尾 慎
- 特徴：定住難民が「教育を受ける」「仕事をする」「地域社会の一員として生活する」
上で、日本語は欠かすことのできない要素だが、公的機関、民間団体、個人が
行う日本語教育について、それぞれの立場から話を聞くことができた。

● 取組3：日本語教育のための学習教材の作成

地域の日本語教室で勉強中の外国人住民、および日本語学習支援者が利用しやすい教材を提供することを目的として実施。当会が作成した様々な教材を有効活用できるような手引書を作成した。

- 期間：2017年5月13日 - 2018年3月10日
- 作成教材：①「体験型初級日本語講座実例集」
②「体験型初級日本語講座・学習者用記録シート」
③「体験型初級日本語講座シラバス案」
④「こんな時どうする？どう思う？」
（「生活者としての外国人」が読んで、考え、話せる初中級～中級読解教材）」
- 主な作成者：田中 美穂子、矢崎 理恵



<活動基礎講座>

異文化コミュニケーション体験ゲーム「バーンガ」実践



<学習教材の作成>

「Try! 日本の味」

② 難民の小・中学生を対象とした「集中学習支援教室」

小学生、中学生を対象に集中学習支援教室を実施。毎週土曜日の学習支援は大きな成果をおさめているものの、週に1回だけの支援では学校の宿題対応や直近の試験対策に多くの時間が費やされ、学生たちの基礎的な学力をつけるという点では限界があった。そこで、2016年夏より長期休暇を利用した「集中学習支援教室」を開催し、学びの機会を提供することで学生たちの日本語力や学力の向上、あわせて学習習慣を身につけ、家庭内での自立学習ができるようになることを目的としている。また、彼らの進学、就職の選択肢を広げることをも事業の目的としている。

- 開催期間： 2017年7月24日 - 2017年8月29日（夏休みの間、計20日間）
2018年3月26日 - 2018年4月4日（春休みの間、計8日間）
- 開催場所： 明治学院大学白金キャンパス内教室
- 受講者数： 23名（国籍：ミャンマー、アフガニスタン、イラン、エチオピア、コンゴ民主共和国、ベトナム等）
- 学習科目： 日本語（国語）、数学（算数）、理科、社会、英語、小論文
- 共 催： 一般財団法人 柳井正財団、
明治学院大学社会学部・教養教育学部「内なる国際化」プロジェクト
- 事業決算額： 4,219,012円



参加者の声 <受講生から>

- ・夏休みに集中して勉強ができた。中1、2年生の復習ができて、わからなかったところもできるようになってよかったと思います。
- ・休み中に勉強する場所がある、ということがありがたくて、その上、先生におしえてもらえるのでとても勉強になった。小論文、数学、総合問題（社会）、全てが分かりやすく丁寧に教えていただいた。それと、8日間という短い期間でしたが、個性的で素敵な友達がたくさんできたことが一番良かったです。毎日がすっごくすっごく楽しかったです。

参加者の声 <受講生の親から>

- ・うちに帰ってきて、教室の事を色々話します。とても楽しいと言っています。10月から錦糸町の教室に通いたいと言っています。よろしくお願いします。
- ・子どもは、春休みの間、本当に楽しかったようです。
- ・いよいよ受験生になるので、春休みに勉強のチャンスがあって、本当によかったです。

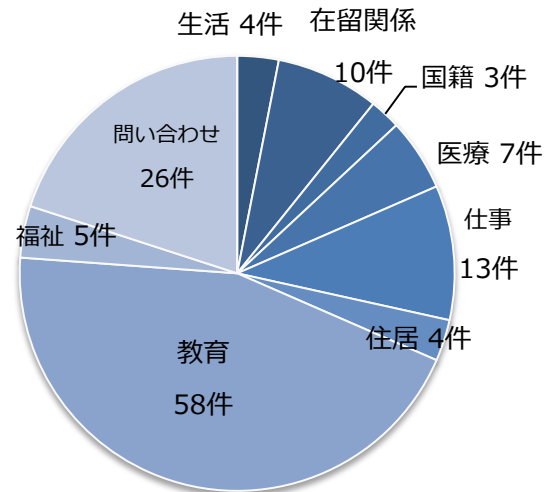
II. 生計困難者に対する相談事業

① 概要

原則として、日曜祝日を除く 10 時～17 時に、電話、面談、E メール、当会ホームページの問い合わせフォームより、各種相談を受け付けた。

② 実施状況

本年度は、以下のような相談が寄せられ、必要に応じて行政や関係団体などへの橋渡しも行った。また本年度より、月 2 回、事務局長及びスタッフ間でケースシェアを行った他、専門家を招いてスタッフ勉強会を実施した。



件数	130 件（対応回数 143 回）
性別	女性：61 名 / 男性：65 名
地域	23 カ国 1 地域
	アジア 9 カ国、中南米 3 カ国、アフリカ 7 カ国、中東 3 カ国 1 地域、欧州 1 カ国

種別	件数	主な内容
生活一般	4 件	家族関係、各種料金の支払い など
在留関係	10 件	在留資格、難民申請関連 など
国籍・戸籍	3 件	帰化申請について
医療関係	7 件	医療機関について、健康診断申込み、病院同行 など
仕事	13 件	就職活動、アルバイト、人材紹介、社会保険 など
住居	4 件	公営住宅申込み
教育	58 件	日本語教室、生活支援プログラム、進路相談、就学資金 など
福祉	5 件	生活保護、生活の困窮 など
問い合わせ	26 件	取材、ボランティア希望 など

III. 緊急支援

1. 緊急支援事業

経済的あるいは健康上の問題などを抱えながらも、行政機関や他の支援団体から援助を受けられない難民などの外国出身者に対し、人道的な立場から、緊急的に金銭の貸付や支給を行う。本年度は該当者なし。

2. 東日本大震災関連支援事業

① 概要

甚大な被害をもたらした東日本大震災の発生直後から7年間、多くの方からのお力添えにより、姉妹団体の認定NPO法人難民を助ける会[AAR Japan]（以下AAR）と共同で被災地の支援活動を継続してきた。この度、2014年に開始した以下のプロジェクト完了を以て、主な事業活動が終了となる。

②実施内容

岩手県大船渡市の障がい者福祉事業所「かたつむり」再建プロジェクト

大津波により活動拠点を失った「かたつむり」は、震災によって困難な状況に置かれた障がい者の就労支援を続けるため、プレハブの仮設事業所で活動を再開した。しかし、2014年に大船渡市の復興計画策定によって津波浸水想定区域に指定され、安全な高台への移転を求められた。当会は同年から事業所の再建に向けて寄付を行い、AARとともに、建設資金の支援を各地に呼びかけてきた。



サンキョー株式会社、公益財団法人イオンワンパーセントクラブ、日本ロレックス株式会社をはじめ、多岐にわたるご支援により施設の再建が叶い、2017年6月24日に竣工式が執り行われた。

竣工式には、施設関係者や利用者約30名とその家族をはじめ、市議会、行政、学校関係者、「かたつむり」と協働している企業・NPOや地元の方々など、100名を超える列席者が集った。

建築費用をご支援くださったサンキョー株式会社から 阿部恭久代表取締役社長（社会福祉法人さぽうと21評議員）、大船渡市の戸田公明市長 などからお祝いの言葉が述べられた。阿部氏からは、被災直後より、同社の店舗で集めた募金についての話もなされた。また、安倍晋三首相からの祝電も披露された。

「かたつむり」の方からは、「東日本大震災という大きな困難を乗り越え、新たなスタートを共に祝うことができ、深く感謝しております。地域において『居場所のない子どもをつくらない』ことを目標にしてきた『かたつむり』ですが、これまでの利用者の中

には、一般就労者として正規雇用された方や、原付免許を取得した方もいます。就労支援が、多くの出会いのおかげで、実を結びつつあると感じております。」と喜びの声が寄せられた。

本年度で、当会の東日本大震災関連支援活動は、事業としては終了となるが、今後はAARの被災地支援活動に引き続き協力していく予定である。7年間に亘って事業を支えてくださった個人、団体、企業の皆さまに、改めて深く御礼申し上げる。

協 力： サンキョー株式会社、公益財団法人イオンワンパーセントクラブ、日本ロレックス株式会社、認定 NPO 法人難民を助ける会 [AAR Japan] 他

IV. 広報活動

1. ニュースレターの発行

広報誌『Newsletter』を、本年度は2回発行した。各号は、会員・寄付者、行政や関係団体、CSR活動に取り組んでいる企業など、約800部/回に発送した。

2. ホームページの更新

当会の活動や、難民などの外国出身者の状況についての周知、また外国出身者への情報提供を目的に、「新着情報」や「ブログ（毎週）」を更新した。

3. 新規名簿管理システムの導入

株式会社セールスフォースがNPO向けに提供しているクラウド型名簿管理システムの導入を進めており、2018年度中の運用に向けて構築している。同システムを活用して会費や寄付の納入状況を正確に把握し、支援者の関心に沿ったイベントの案内などを行うことで、新規支援者や既存の会員・寄付者との良好な関係の保持に努める。

4. 外部での活動報告

学校や団体、公的機関などからの依頼により、事務局長や現場で働くスタッフが、活動報告や難民等の定住外国出身者の置かれている状況について報告した。

5月	・明治学院大学（10日）／・清泉女子大学（22日）
6月	・ステークホルダーエンゲージメントプログラム（1日） ・聖心女子大学（20日）
7月	・学芸大学（4日）／・慶應義塾大学 SFC（14日）
8月	・千葉県立佐倉高校（24日） ・文化庁 日本語教育大会 ICT ブース（27日）
9月	・（公財）世界宗教者平和会議 日本委員会（19日）
10月	・企業&社員のための社会貢献セミナー2017（6日） ・難民支援者全国会議（27日）
3月	・子どもの日本語教育研究会（3日）

5. パートナーシップ・イベント

姉妹団体の AAR や、NPO 法人なんみんフォーラム (FRJ) などと協力し、行事の共催や、支援を必要とする方に関する情報の共有を行った。

6 月：世界難民の日



国連が定める「世界難民の日」(6月20日)にあたり、なんみんフォーラム (FRJ) に加盟する難民支援の団体が、活動紹介のブースを出展した。

会場: JELA ホール(日本福音ルーテル社団)
(東京都 渋谷区)

10 月：グローバルフェスタ



グローバルフェスタは、国際協力機関・団体の活動紹介の場として毎年開催されている。学習支援室の学習者とボランティア講師が中心となり、展示と飲食のブースを出展した。

会場: お台場 センタープロムナード
(東京都 江東区)

1 月：LUSH 代官山×さぼうと21



株式会社ラッシュジャパンが、昨年につづき、「難民支援キャンペーン」を全国で展開。当会は代官山店で1日限定の展示ブースを出展させてもらい、対象商品の売り上げ分をご寄付いただいた。

会場: ラッシュ代官山店 (東京都 渋谷区)

V. 団体／企業によるご協力

1. ご寄付

株式会社 Mari Company
株式会社東京スター銀行
コミュニティサロン801
宗教法人妙雲寺
高野興業株式会社
東京パチンコボランティア基金
東洋熱工業株式会社
日本アイ・ビー・エム株式会社
ファースト・パシフィック・キャピタル有限会社
マルハンユニオン事務所
むらたクリニック
有限会社 タニパテントシステムズ
Project HEAT (HSBC グループ)
Salesforce.org

2. イベント等へのご協力

オイシックスドット大地 株式会社
株式会社エイチ・アイ・エス
株式会社進路情報ネットワーク
株式会社セールスフォース・ドットコム
株式会社東京スター銀行
株式会社ファミリーマート
株式会社ラッシュジャパン
株式会社リクルートキャリア 就職みらい研究所
株式会社ワイズ・インフィニティ
ソルベイススペシャルティポリマーズジャパン株式会社
東京都行政書士会 品川支部
明治学院大学「内なる国際化」プロジェクト
認定 NPO 法人難民を助ける会 [AAR Japan]

3. 物品ご寄贈

特定非営利活動法人日本アート基金

有限責任あずさ監査法人

4. 助成・委託 など

一般財団法人 柳井正財団

集中学習支援教室（春休み・夏休み）、難民対象の学習支援室（東部教室）

東京都在住外国人支援事業

難民等定住外国人住民と日本人住民が共に学び、成長する「学習支援室」充実化事業

独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業

定住外国人の就職活動に関する相談事業

文化庁 委託事業

『生活者としての外国人』のための日本語教育事業「地域日本語教育実践プログラム(A)

事業実施期間：2017年4月～2018年3月

5. 「pp奨学金（パチンコ・パチスロ奨学金）」運営資金 (iii) pp奨学金（P.4）

一般社団法人日本遊技関連事業協会

株式会社マルハン

上野遊技場組合

株式会社ミナミ

鳳企業株式会社

株式会社ミリオンインターナショナル

神奈川県遊技場協同組合

岐阜県遊技業協同組合

株式会社伊藤園

サンキョー株式会社

株式会社エクサ

三宝商事株式会社

株式会社大井ニュー東京

品川ヨドバシ商事株式会社

株式会社カツヨシ商事

石神井遊技場組合

株式会社上今コーポレーション

新宿遊技場組合

株式会社九州エース電研

杉並遊技場組合

株式会社三栄

第10ブロック協議会

株式会社山洋プレイランド

太平商事株式会社

株式会社大栄

東京都遊技業協同組合

株式会社大善

トリックスターズ・アリア有限公司

株式会社ダイヤモンド会館

日本電動式遊技機工業協同組合

株式会社千歳観光

日本遊技機工業組合

株式会社ネクスト

練馬遊技場組合

株式会社ひぐち

八王寺遊技場組合

株式会社ビクトリア観光

光ヶ丘遊技場組合

株式会社プロスパ

フシミコーポレーション株式会社

メトロ会館

(五十音順・敬称略)

VI. 平成 29 (2017) 年度 決算・監査報告

資金収支計算書

本部拠点

(自) 平成29年4月1日 (至) 平成30年3月31日

(単位：円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
収入	生活支援事業収入	9,500,000	9,586,931	-86,931	
	その他の事業収入	9,500,000	9,586,931	-86,931	
	受託事業収入	3,000,000	2,544,719	455,281	
	その他の事業収入	6,500,000	7,042,212	-542,212	
	会費収入	1,500,000	2,660,000	-1,160,000	
	正会員費収入	1,500,000	2,660,000	-1,160,000	
	経常経費寄附金収入	58,100,000	42,783,272	15,316,728	
	受取利息配当金収入	15,000,000	15,046,633	-46,633	
	その他の収入		124,884	-124,884	
	雑収入		124,884	-124,884	
	流動資産評価益等による資金増加額			0	
	有価証券売却益			0	
	有価証券評価益			0	
	事業活動収入計(1)		84,100,000	70,201,720	13,898,280
事業活動による収支	支出				
	人件費支出	17,765,000	17,920,151	-155,151	
	職員給料支出	15,120,000	15,057,885	62,115	
	職員賞与支出	890,000	890,000	0	
	非常勤職員給与支出	30,000	100,000	-70,000	
	法定福利費支出	1,725,000	1,782,266	-57,266	
	退職給付費用		90,000	-90,000	
	事業費支出	44,982,094	38,909,068	6,073,026	
	生活支援金支出	20,380,000	20,191,008	188,992	
	生活相談費支出	3,000,000	2,834,045	165,955	
	被災者支援金支出			0	
	旅費交通費支出	1,900,000	1,487,786	412,214	
	通信運搬費支出	800,000	430,057	369,943	
	会議費支出	310,000	148,851	161,149	
	謝金支出	9,300,000	4,537,324	4,762,676	
	業務委託費支出	6,500,000	7,118,059	-618,059	
	諸会費支出			0	
	消耗器具備品費支出	700,000	618,455	81,545	
	手数料支出	192,094	192,094	0	
	保険料支出	100,000	95,422	4,578	
賃借料支出	950,000	948,591	1,409		
印刷費支出	800,000	269,922	530,078		
雑支出	50,000	37,454	12,546		

事業活動による収支	事務費支出	2,608,128	2,107,605	500,523	
	福利厚生費支出	50,000	7,905	42,095	
	旅費交通費支出	50,000	48,178	1,822	
	研修研究費支出			0	
	事務消耗品費支出	200,000	187,614	12,386	
	印刷製本費支出	420,000	302,768	117,232	
	水道光熱費支出			0	
	修繕費支出			0	
	通信運搬費支出	500,000	479,997	20,003	
	会議費支出	35,000	31,005	3,995	
	広報費支出			0	
	業務委託費支出			0	
	手数料支出	100,000	97,010	2,990	
	保険料支出			0	
	賃借料支出	727,128	727,128	0	
	土地・建物賃借料支出			0	
	会員名簿支出	300,000		300,000	
	租税公課支出			0	
	保守料支出			0	
	諸会費支出			0	
謝金支出	226,000	226,000	0		
佐賀事務所開設準備費 雑支出			0		
支払利息支出			0		
その他の支出	10,000	0	10,000		
雑支出	10,000		10,000		
徴収不能額					
	事業活動支出計(2)	65,365,222	58,936,824	6,428,398	
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	18,734,778	11,264,896	7,469,882	
施設整備等による収支	収入				
	固定資産売却収入				
	車輛運搬具売却収入				
	器具及び備品売却収入			0	
	その他の施設整備等による収入				
	施設整備等収入計(4)	0	0	0	
支出	固定資産取得支出				
	土地取得支出				
	建物取得支出				
	車輛運搬具取得支出				
	器具及び備品取得支出				
固定資産除却・廃棄支出					
	施設整備等支出計(5)	0	0	0	
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	0	0	0	
その他の活動	収入				
	その他の活動による収入				
		その他の活動収入計(7)	0	0	0
	支出				
	その他の活動による支出				
	その他の活動支出計(8)	0	0	0	
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	0	0	0	
	予備費支出(10)	500,000		444,778	
		-55,222			
	当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	18,290,000	11,264,896	7,025,104	
	前期末支払資金残高(12)	18,242,921	18,242,921	0	
	当期末支払資金残高(11)+(12)	36,532,921	29,507,817	7,025,104	

(注) 予備費支出-55,222円は手数料支出42,094円、謝金支出6,000円、賃借料支出7,128円に充当使用した額である。

貸借対照表

平成30年3月31日現在 (単位：円)

資 産 の 部				負 債 の 部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	30,029,537	18,440,266	11,589,271	流動負債	521,720	197,345	324,375
現金預金	29,846,477	18,440,266	11,406,211				
前払金	183,060		183,060				
				職員預り金	393,106	197,345	195,761
				事業未払金	128,614		128,614
固定資産	208,466,116	200,038,829	8,427,287	固定負債			
基本財産	208,448,516	100,021,229	108,427,287				
定期預金	100,029,700	100,021,229	8,471				
投資有価証券	108,418,816		108,418,816				
その他の固定資産	17,600	100,017,600	-100,000,000				
土地	17,600	17,600	0				
				負債の部合計	521,720	197,345	324,375
				純 資 産 の 部			
				基本金	100,000,000	100,000,000	0
				次期繰越活動増減差額	137,973,933	118,281,750	19,692,183
投資有価証券		100,000,000	-100,000,000	(うち当期活動増減差額)	19,692,183	-13,078,947	32,771,130
				純資産の部合計	237,973,933	218,281,750	19,692,183
資産の部合計	238,495,653	218,479,095	20,016,558	負債及び純資産の部合計	238,495,653	218,479,095	20,016,558

監査報告書

平成30（2018）年 5月 24日

社会福祉法人さぼうとにじゅういち

理事長 吹浦 忠正 殿

監事 沼田 美穂



監事 東川 レバン



監事 水上 洋一郎



私たち監事は、平成29年4月1日から平成30年3月31日までの平成29年度の理事の職務の執行について監査を行いました。その方法及び結果について、次の通り報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。以上の方法により、当該会計年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該会計年度に係る計算関係書類（計算書類及びその附属明細書）及び財産目録について検討しました。

2 監査の結果

（1）事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の遂行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

（2）計算関係書類及び財産目録の監査結果

計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以 上

Ⅶ. 役員一覽

理事長	吹浦 忠正	ユーラシア 21 研究所 理事長、元埼玉県立大学 教授
------------	-------	-----------------------------

理事	青木 秀茂	弁護士
	垣平 通世	東北ホモボード工業(株) 代表取締役会長
	小松 博史	日本コンサルタンツ(株) インド高速鉄道推進本部 部長
	野末 尚	東洋熱工業(株) 最高顧問
	深谷 友尋	フシミコーポレーション(株) 代表取締役会長
	山田 寛	元嘉悦大学教授、 元読売新聞アメリカ総局長
事務局長	高橋 敬子	元東京都外国人相談 相談員

監事	沼田 美穂	弁護士
	東川 レバン	レオンテック(株) 代表取締役
	水上 洋一郎	(公財)日韓文化協会顧問、 元東京入国管理局長

顧問	稲岡 稔	ブルリッジ・アストリアス・インスティテュート LLC 東京代表、 元セブン・アント・アイ・ホールディングス 常務執行役員
	河合 弘之	弁護士
	沼田 安弘	弁護士
最高顧問	松永 知恵子	NPO 法人危機の子どもたち・ 希望 理事
	柳瀬 房子	(特非)難民を助ける会 会長

評議員	秋葉 佳子	東京都外国人相談 相談員
	阿部 恭久	サンキョー(株) 代表取締役社長
	池上 清子	日本赤十字社 常任理事、 長崎大学大学院 教授
	大貫 康雄	(公社)自由報道協会代表理事、 元 NHK ヨーロッパ総局長
	岡田 正幸	行政書士
	寺家村 博	拓殖大学教授
	島田 貴乃	ボランティア
	高野 泰宏	高野興業(株) 代表取締役
	田辺 寿夫	ジャーナリスト、元 NHK 国際局 チーフディレクター
	西原 鈴子	(特非)日本語教育研究所 理事長

(2018 年 3 月 現在 / 五十音順)